

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 福岡財務支局長

【提出日】 平成28年11月9日

【四半期会計期間】 第63期第2四半期(自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日)

【会社名】 株式会社南陽

【英訳名】 NANYO CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 武内英一郎

【本店の所在の場所】 福岡市博多区博多駅前3丁目19番8号

【電話番号】 (092)472 7331(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長兼経営企画室長 篠崎学

【最寄りの連絡場所】 福岡市博多区博多駅前3丁目19番8号

【電話番号】 (092)472 7331(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長兼経営企画室長 篠崎学

【縦覧に供する場所】 証券会員制法人福岡証券取引所  
(福岡市中央区天神2丁目14番2号)  
株式会社南陽北関東支店  
(埼玉県熊谷市石原645番1 第二ミナモトビル1階)  
株式会社南陽東京支店  
(東京都中央区日本橋堀留町1丁目10番16号  
第8センタープラザ8階)  
株式会社南陽関西支店  
(兵庫県西宮市甲子園七番町17番28号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第62期 第2四半期 連結累計期間	第63期 第2四半期 連結累計期間	第62期
会計期間		自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高	(百万円)	15,412	15,311	31,702
経常利益	(百万円)	841	1,123	1,718
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	516	690	1,002
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	444	604	834
純資産額	(百万円)	13,196	13,936	13,491
総資産額	(百万円)	30,510	28,652	30,119
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	81.17	108.38	157.44
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	43.3	48.6	44.8
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	588	749	2,228
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	427	303	1,005
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	542	624	993
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	3,987	4,931	4,559

回次		第62期 第2四半期 連結会計期間	第63期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	35.65	46.16

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、連結子会社の株式会社南陽クリエイトは、平成28年6月28日開催の同社の株主総会において解散を決議しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、英国のEU離脱問題や紛争、テロなどの地政学的リスクの高まりを受け、金融、為替市場は不安定な状況が続きました。また、マイナス金利の継続や消費税増税の延期などの下支えにもかかわらず、個人消費は低迷を続けるとともに、中国を始めとする世界経済の先行き不透明感の強まりを受け、企業は設備投資に慎重姿勢を続けるなど、踊り場の中で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループの連結業績につきましては、期初想定していなかった大口案件が計上されるとともに、取引先の要請により貸与資産の売却時期が早まったこと等により、売上高は15,311百万円（前年同期比0.7%減）、営業利益は1,062百万円（前年同期比35.8%増）、経常利益は1,123百万円（前年同期比33.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は690百万円（前年同期比33.5%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### 建設機械事業

建設機械事業におきましては、公共事業予算が一部前倒しで執行されるとともに、熊本地震の復旧、復興に向けた環境は整いつつあるものの、需要の本格回復には至らず横這いの状況が続く中、販売部門においては、既存取引先の需要の掘り起こしに努めるとともに、レンタル部門においては、民間需要の開拓と拠点間の設備移動を柔軟に実施し取引先のニーズに対応してまいりました。この結果、沖縄地区での販売は好調に推移したものの、他の地域においては需要の掘り起こしが進まなかったことにより、売上高は5,892百万円（前年同期比3.6%減）となりました。なお、セグメント利益については、レンタル部門において貸与資産を前倒して売却したこと等により、748百万円（前年同期比26.9%増）となりました。

#### 産業機器事業

産業機器事業におきましては、世界経済の先行き不透明感の強まりを受け、企業は設備投資に慎重姿勢を続けるとともに、熊本地震により工場が被災し、生産活動に影響が出る中、好調が続くロボット分野を始めとした省力化投資や車載用デバイスに関わる案件獲得に努めるとともに、IoTに関連する取引先の開拓と深耕に努めてまいりました。また、継続して新たな生産部品・消耗部品の開拓と販売強化にも努めた結果、生産部品・消耗部品の販売が好調に推移するとともに、期初想定していなかった大口案件が計上されたことにより、売上高は9,204百万円（前年同期比1.5%増）、セグメント利益は504百万円（前年同期比39.2%増）となりました。

#### 砕石事業

砕石事業におきましては、公共事業予算が一部前倒しで執行されるとともに、熊本地震の復旧、復興に向けた環境は整いつつあるものの、需要の本格回復には至らず横這いの状況が続く中、社会インフラの補修、整備を目的とした公共工事の受注獲得に努めるとともに、継続して中小規模の民間工事の受注獲得にも努めてまいりました。しかしながら、官需、民需ともに需要の回復が遅れたことにより、売上高は213百万円（前年同期比7.5%減）となりましたが、販売単価の交渉を粘り強く進めた結果、セグメント利益は17百万円（前年同期比93.9%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

資産は、前連結会計年度に比べ1,466百万円減少（4.9%減）し、28,652百万円となりました。増減の主な内容は、受取手形及び売掛金が1,141百万円、貸与資産が587百万円それぞれ減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度に比べ1,911百万円減少（11.5%減）し、14,716百万円となりました。増減の主な内容は、支払手形及び買掛金が1,029百万円、長期借入金が230百万円、リース債務が214百万円それぞれ減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度に比べ445百万円増加（3.3%増）し、13,936百万円となりました。増減の主な内容は、利益剰余金が530百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は48.6%と前連結会計年度に比べ3.8ポイント上昇いたしました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度に比べ372百万円増加（8.2%増）し、4,931百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とその増減の要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、営業活動による資金の増加は749百万円（前年同期は588百万円の増加）となりました。これは主に前第2四半期連結累計期間に比べ、税金等調整前四半期純利益が増加したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、投資活動による資金の増加は303百万円（前年同期は427百万円の減少）となりました。これは主に前第2四半期連結累計期間に比べ、有形固定資産の取得による支出が減少したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、財務活動による資金の減少は624百万円（前年同期は542百万円の減少）となりました。これは主に前第2四半期連結累計期間に比べ、短期借入金に係る資金が減少したことによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	19,268,000
計	19,268,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成28年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年11月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,615,070	6,615,070	福岡証券取引所	単元株式数は、 100株であります。
計	6,615,070	6,615,070		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年7月1日～ 平成28年9月30日		6,615,070		1,181		1,015

(6) 【大株主の状況】

平成28年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
九州理研株式会社	福岡市中央区平和5丁目13-4	388	5.86
武内徳夫	福岡市中央区	334	5.05
株式会社西日本シティ銀行	福岡市博多区博多駅前3丁目1-1	315	4.77
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1-2	314	4.75
株式会社福岡企画	福岡市中央区平和5丁目13-4	193	2.92
長谷川 猛 夫	福岡市南区	187	2.83
白 江 や す	川崎市麻生区	184	2.79
山 崎 梨 影	川崎市麻生区	184	2.79
武内禮次	福岡市中央区	183	2.77
第一生命保険株式会社 (常任代理人 資産管理サービ ス信託銀行株式会社)	東京都千代田区有楽町1丁目13-1 (東京都中央区晴海1丁目8-12)	177	2.68
計		2,464	37.25

(注) 当社は、自己株式247千株(3.73%)を保有しておりますが、上記には含めておりません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 247,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,365,300	63,653	
単元未満株式	普通株式 2,570		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	6,615,070		
総株主の議決権		63,653	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式15株が含まれております。

【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社南陽	福岡市博多区博多駅 前3丁目19 8	247,200		247,200	3.73
計		247,200		247,200	3.73

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。



## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	4,566	4,938
受取手形及び売掛金	11,166	10,024
電子記録債権	743	1,139
賃貸料等未収入金	640	532
商品及び製品	1,076	1,108
仕掛品	25	21
貯蔵品	4	3
その他	740	543
貸倒引当金	400	396
流動資産合計	18,563	17,916
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
貸与資産（純額）	7,054	6,466
その他（純額）	2,269	2,218
有形固定資産合計	9,323	8,685
<b>無形固定資産</b>		
のれん	28	21
その他	81	66
無形固定資産合計	110	88
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1,447	1,435
その他	721	556
貸倒引当金	60	37
投資その他の資産合計	2,108	1,953
<b>固定資産合計</b>	11,542	10,727
<b>繰延資産</b>		
開発費	13	9
繰延資産合計	13	9
<b>資産合計</b>	30,119	28,652

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,764	7,734
短期借入金	1,368	1,406
1年内返済予定の長期借入金	769	664
リース債務	2,043	1,829
未払法人税等	317	258
賞与引当金	257	229
役員賞与引当金	30	
割賦利益繰延	667	567
その他	717	583
流動負債合計	14,936	13,272
固定負債		
長期借入金	745	515
役員退職慰労引当金	124	106
その他の引当金	<sup>2</sup> 373	<sup>2</sup> 377
退職給付に係る負債	342	333
その他	104	109
固定負債合計	1,691	1,443
負債合計	16,627	14,716
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,181	1,181
資本剰余金	1,015	1,015
利益剰余金	10,968	11,499
自己株式	231	231
株主資本合計	12,934	13,465
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	379	443
繰延ヘッジ損益	3	1
為替換算調整勘定	180	28
その他の包括利益累計額合計	556	470
純資産合計	13,491	13,936
負債純資産合計	30,119	28,652

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	15,412	15,311
売上原価	12,907	12,563
差引売上総利益	2,505	2,747
割賦販売未実現利益戻入額	187	154
割賦販売未実現利益繰入額	89	54
売上総利益	2,603	2,847
販売費及び一般管理費	1,820	1,785
営業利益	782	1,062
営業外収益		
受取利息	16	9
受取配当金	9	12
持分法による投資利益	18	10
貸倒引当金戻入額	30	23
その他	25	41
営業外収益合計	101	97
営業外費用		
支払利息	38	32
その他	3	4
営業外費用合計	42	36
経常利益	841	1,123
特別利益		
固定資産売却益	0	-
特別利益合計	0	-
特別損失		
固定資産売却損	0	-
固定資産除却損	0	0
投資有価証券評価損	-	49
特別損失合計	0	49
税金等調整前四半期純利益	841	1,073
法人税、住民税及び事業税	321	261
法人税等調整額	2	122
法人税等合計	324	383
四半期純利益	516	690
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	516	690

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	516	690
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	99	60
繰延ヘッジ損益	-	2
為替換算調整勘定	12	102
持分法適用会社に対する持分相当額	14	46
その他の包括利益合計	72	85
四半期包括利益	444	604
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	444	604
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	841	1,073
減価償却費	822	777
のれん償却額	7	7
貸倒引当金の増減額(は減少)	15	28
賞与引当金の増減額(は減少)	19	26
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	1	9
受取利息及び受取配当金	26	21
支払利息	38	32
持分法による投資損益(は益)	18	10
固定資産除売却損益(は益)	0	0
投資有価証券評価損益(は益)	-	49
売上債権の増減額(は増加)	46	713
たな卸資産の増減額(は増加)	252	34
仕入債務の増減額(は減少)	143	981
その他	1,017	478
小計	766	1,062
利息及び配当金の受取額	48	38
利息の支払額	38	31
法人税等の支払額	187	320
営業活動によるキャッシュ・フロー	588	749
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	534	240
有形固定資産の売却による収入	403	541
無形固定資産の取得による支出	3	0
投資有価証券の取得による支出	38	1
貸付金の回収による収入	44	0
その他の支出	304	3
その他の収入	5	7
投資活動によるキャッシュ・フロー	427	303
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	291	96
ファイナンス・リース債務の返済による支出	275	251
長期借入金の返済による支出	310	310
配当金の支払額	248	159
財務活動によるキャッシュ・フロー	542	624
現金及び現金同等物に係る換算差額	11	56
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	369	372
現金及び現金同等物の期首残高	4,357	4,559
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,987	4,931

## 【注記事項】

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

## 1 保証債務

(1) 当社が商品を販売したリース会社に対して、リース会社の有する債権について保証をしております。

前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
18百万円	15百万円

(2) 取引先に対する建設機械等の買取保証をしております。

前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
31百万円	30百万円

## 2 その他の引当金の内容

前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)	
跡地修復引当金	373百万円	377百万円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
貸倒引当金繰入額	25百万円	19百万円
給料及び手当	670百万円	677百万円
賞与引当金繰入額	220百万円	221百万円
退職給付費用	21百万円	49百万円
役員退職慰労引当金繰入額	4百万円	7百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
現金及び預金	4,290百万円	4,938百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	302百万円	6百万円
現金及び現金同等物	3,987百万円	4,931百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月23日 定時株主総会	普通株式	248	39	平成27年3月31日	平成27年6月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年11月5日 取締役会	普通株式	95	15	平成27年9月30日	平成27年12月4日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月24日 定時株主総会	普通株式	159	25	平成28年3月31日	平成28年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年11月8日 取締役会	普通株式	95	15	平成28年9月30日	平成28年12月5日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	建設機械事業	産業機器事業	砕石事業	計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	6,113	9,067	230	15,412		15,412
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	37	7		45	45	
計	6,151	9,075	230	15,457	45	15,412
セグメント利益	589	362	8	961	178	782

(注) 1 セグメント利益の調整額 178百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	建設機械事業	産業機器事業	砕石事業	計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	5,892	9,204	213	15,311		15,311
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	8		11	11	
計	5,895	9,213	213	15,322	11	15,311
セグメント利益	748	504	17	1,270	207	1,062

(注) 1 セグメント利益の調整額 207百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。



(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	81円17銭	108円38銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	516	690
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	516	690
普通株式の期中平均株式数(千株)	6,367	6,367

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第63期(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)中間配当について、平成28年11月8日開催の取締役会において、平成28年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額 95百万円  
1株当たりの金額 15円00銭  
支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成28年12月5日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年11月7日

株式会社南陽  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 内 藤 真 一 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 只 隈 洋 一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社南陽の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社南陽及び連結子会社の平成28年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。